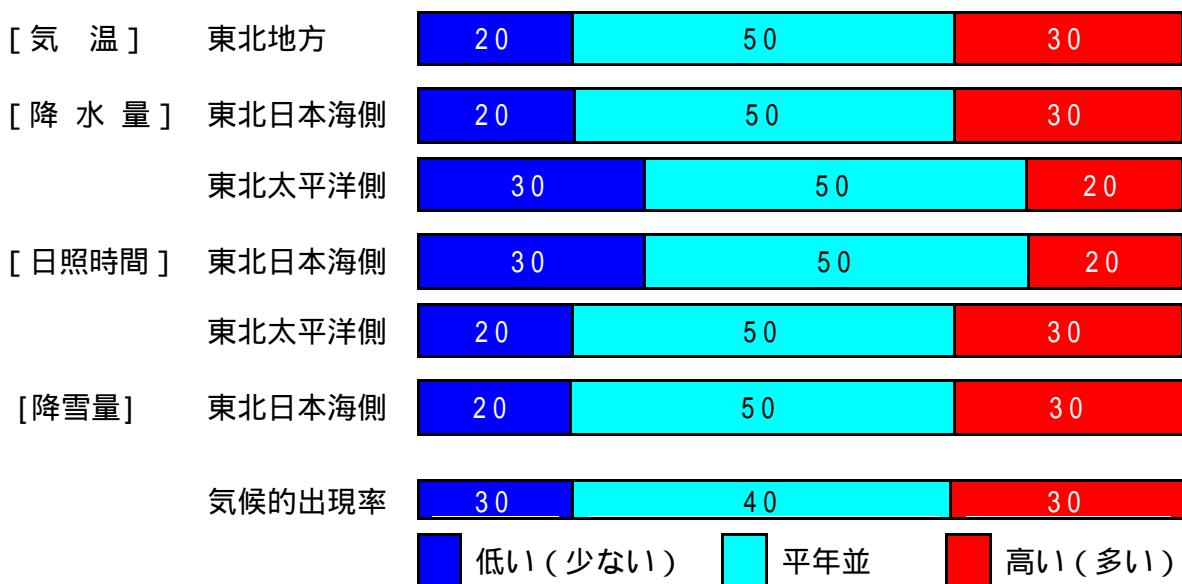


# 東北地方 1か月予報の解説(予報期間:2月12日~3月11日)

平成12年2月11日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「高い」で、その確率は30%です。「低い」の確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

### 向こう1か月

東北地方は、期間の前半は冬型の気圧配置の日が多いでしょう。一時強い寒気が南下する見込みです。後半は冬型の気圧配置は弱く、暖かい日が多いでしょう。

この期間天気は、東北日本海側では平年同様曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多い見込みです。

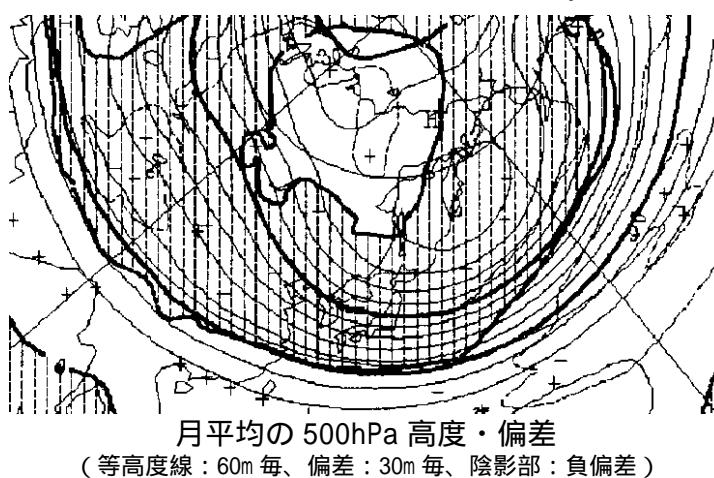
平均気温は平年並でしょう。また、東北日本海側の降雪量は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約12日、東北太平洋側で約20日です。

## 各予報期間の天候の特徴

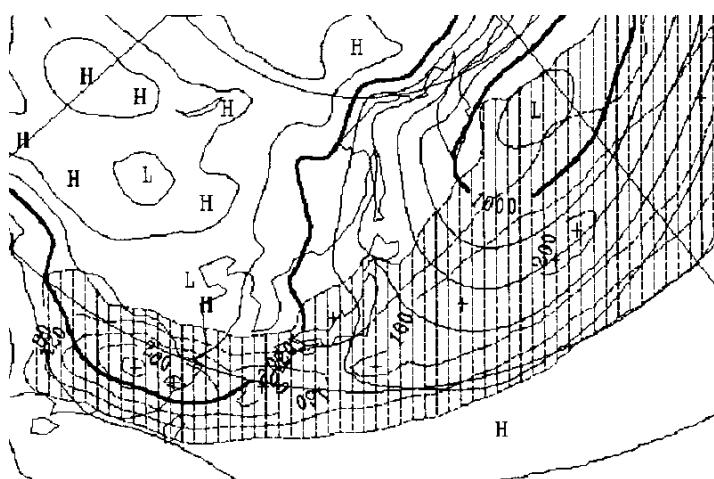
- 1週目…………… 向こう一週間は、冬型の気圧配置の日が多いですが、14日頃に気圧の谷が通るでしょう。東北日本海側では、雪か雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では、14日頃天気がくずれるほかは、おおむね晴れる見込みです。  
 平均気温は平年並の見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約5日です。
- 2週目…………… 冬型の気圧配置の日が多いでしょう。一時強い寒気が入る見込みです。平年同様、東北日本海側は曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。  
 平均気温は平年並の見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約5日です。
- 3~4週目…………… 冬型の気圧配置は弱く、暖かい日が多いでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年同様晴れの日が多い見込みです。  
 平均気温は高い見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約6日、東北太平洋側で約10日です。

## 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



- 500hPa高度・偏差  
 月平均でみると、日本付近の東海上から大陸にかけて負偏差に覆われている。バイカル湖付近は弱い気圧の尾根で、日本付近は弱い気圧の谷となっており、これまでより寒気が流れ込みやすい場となる。

週別（図略）では、2週目に日本付近は強い負偏差に覆われ、一時的に寒気が入りやすい場。3~4週目には北日本は正偏差に覆われ寒気は入りにくい。

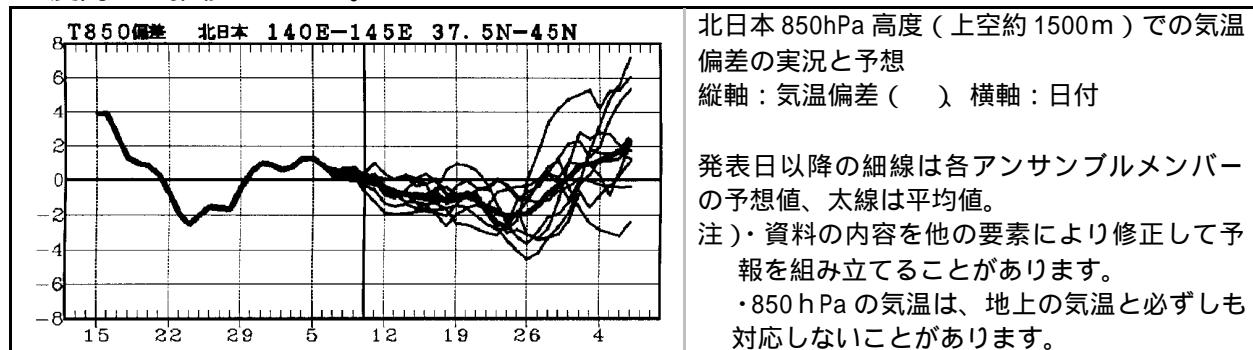


- 地上気圧と降水量  
 月平均でみると、西高東低の冬型の気圧配置を示すが、等圧線の間隔は日本付近で広く、冬型は弱い。また、日本の南には降水域が東西に広がり、太平洋側で比較的明瞭であるが、東北地方への影響は小さい。

週別（図略）では、1週目、2週目は、冬型の気圧配置となり、月平均に比べ等圧線の間隔は狭く、冬型が強い。

### 3. 北日本 850 hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目から 3週目の中ごろにかけ負偏差となる。2週目後半が低極となり、一時強い寒気の南下が予想される。ただし最近の実況では、東北地方の地上気温偏差は、北日本 850hPa の気温偏差に比べて 1~2度高めに推移している。

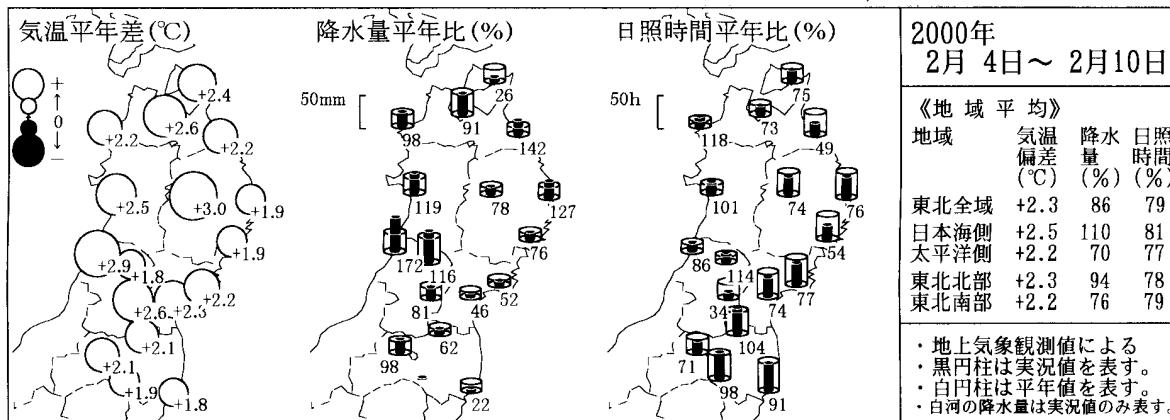


注: 1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します(この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます)。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

### 4. 最近1週間(2月4日~2月10日)の天候の経過

この期間、6~7日と、8日に気圧の谷が通過し、東北地方は曇りや雨または雪の所が多くなった。その他のは冬型の気圧配置が多く、東北日本海側では曇りや雨または雪となり、東北太平洋側ではおおむね晴れた。

平均気温は、東北地方で平年差+2.3と平年を上回った。降水量は、東北日本海側で平年比110%と平年を上回り、東北太平洋側では平年比70%と平年を下回った。日照時間は、東北日本海側で平年比81%、東北太平洋側で平年比77%とともに平年を下回った。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)